

「ハゲタカ」雑誌や偽学会から研究者を守る 電子メール受信拒否の方略

渡辺 淳

関西医科大学 大学情報センター

【背景・目的】論文掲載料（APC）で運営される Open Access (OA) 雑誌の出版コストは冊子体方式に較べて合理的である。この点に着目し、査読を適切に行わずに営利（APC 収入）を目的とした出版社（predatory publisher; ハゲタカ出版社）による OA 雑誌の刊行が増加している。その広告手段には電子メールが用いられており、研究者は、連日、ハゲタカ出版社や営利目的の国際学会（bogus conferences: 偽学会）からの迷惑メールにさらされている。これらの迷惑メールの受信回避を目的として電子メールの SMTP エンベロープヘッダの特徴を解析し、該当するメールを受信阻止するための方略を検討した。

【材料と方法】直近 2 年間のメール受信継サーバのログに記載された SMTP エンベロープヘッダおよびそれらに記載されたドメインの所有者情報等を KH coder を用いてマイニングに供した。解析・プロファイリングによって策定した阻止方略に則して受信拒否のためのフィルタを作成・検証した。多変量解析と結果の描画には GNU-R を用いた。

【結果と考察】営利目的の雑誌・国際会議等への勧誘メールは全迷惑メール（約 200 万通）の 2 割弱を占めた。送信には、正規メールが大量に送信されている大手メールサービスや欧米のホスティング業者、南アジアのデータセンター等が利用され、それらを併用した送信サーバ分散による DNS-ブラックリスト(BL)回避策が図られている点で前払金詐欺詐欺メールと類似していた。欧米から送信されたメールの送信者アドレスドメイン部には南アジアの組織によって登録されたドメインが多用され、南アジアから送信されたものの送信者ドメイン部の多くでは登録情報の隠蔽が図られていた。新刊雑誌の多くは、2017 年初頭まで公開されていた Beall's list 掲載のハゲタカ出版社・雑誌との関係が描出された

（現在、2016 年末の時点の Beall's list が <http://beallslist.weebly.com/> で閲覧可能）。また、送信サーバと送信者アドレスドメイン部の登録者情報によってハゲタカ雑誌および営利目的の国際会議主催団体をグルーピングできることが判明した。これらの情報を用いて構成された受信拒否フィルタを用い、ハゲタカ出版社・雑誌や偽学会からの迷惑メールの 95%以上を受信拒否することで、研究者がトラブルに陥る危険性の軽減を図っている。

他方、旧発展途上国を中心とした研究者の急増に加え、研究者は、その大半が「Publish or Perish」の環境に曝されていることから、投稿先としての科学雑誌の需要は増大している。そこで、研究者がハゲタカ出版社・雑誌等の仕掛けた罠に嵌ってしまう懸念がある。今後、これらのハゲタカ出版社・雑誌が正当な科学雑誌出版社になって発展して行く可能性は否定できないが、今後しばらくの間は、研究者に対する医療情報サービスの一環として、ハゲタカ出版社・雑誌や偽学会に関する情報提供が必要と思われる。